

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成20年5月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成20年4月分(平成20年3月31日～4月27日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	558	1.21	3.44	↓	10	百日咳	60	0.21	0.02	↗
2	RSウイルス感染症	34	0.12	-	↓	11	ヘルパンギーナ	17	0.06	0.13	→
3	咽頭結膜熱	142	0.49	0.34	↗	12	流行性耳下腺炎	43	0.15	0.88	→
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	405	1.41	1.19	↘	13	急性出血性結膜炎	5	0.07	0.02	
5	感染性胃腸炎	2,416	8.39	8.63	↘	14	流行性角結膜炎	75	0.99	1.25	↘
6	水痘	421	1.46	1.57	↗	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	176	0.61	0.17	↗	16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.04	
8	伝染性紅斑	51	0.18	0.25	↗	17	マイコプラズマ肺炎	30	0.36	0.23	→
9	突発性発しん	212	0.74	0.63	↗	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成20年4月分(4月1日～4月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	58	2.52	1.93	↗	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	101	4.81	5.43	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	13	0.57	0.65	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	27	1.29	2.44	↗
21	尖圭コンジローマ	8	0.35	0.54		25	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.29	
22	淋菌感染症	30	1.30	0.75	↗						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急減疾患 インフルエンザ (1810件 558件)
急減疾患 RSウイルス感染症 (92件 34件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名（管轄保健所）
一類	0	発生なし
二類	42	結核（広島市保健所（13）、福山市保健所（3）、呉市保健所（9）、広島地域保健所（7）、呉地域保健所（1）、東広島地域保健所（7）、尾三地域保健所（1）、福山地域保健所（1））
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症（O128）（福山市保健所）
四類	6	レジオネラ症（2）（広島市保健所）、つつが虫病（4）（広島市保健所（1）、備北地域保健所（3））
五類全数	51	後天性免疫不全症候群（2）（広島市保健所）、梅毒（2）（広島市保健所） 風しん（2）（呉市保健所、福山市保健所）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2）（広島市保健所） ウイルス性肝炎（B型）（3）（広島市保健所（1）、福山市保健所（2）） 急性脳炎（1）（広島市保健所）、アメーバ赤痢（2）（広島市保健所、尾三地域保健所） 麻しん（37）（広島市保健所（12）、呉市保健所（13）、福山市保健所（1）、広島地域保健所（1）、芸北地域保健所（2）、東広島地域保健所（8））

3 一般情報

百日咳の流行について

国の感染症発生動向調査による百日咳の報告数は、平成20年に入り増加しており、過去5年平均より多い状況が続いています。都道府県別にみると、平成20年1月から5月4日（第18週）の累積報告数で、千葉県279件、広島県138件、福岡県125件、大阪府107件の順に多くなっています。

広島県では、第16週（4/14～4/20）に報告数が21件（定点当たり0.29）と急増し、第17週（4/21～4/27）23件（定点当たり0.32）、第18週（4/28～5/4）20件（定点当たり0.28）と5年平均定点当たり（0.01～0.02）と比較し、非常に多い状況が続いています。第19週には広島地域保健所管内の大学で集団発生による休校の措置がとられました。保健所別にみると、広島市保健所、広島地域保健所、備北地域保健所管内で患者報告が増加しています。これから秋にかけて流行時期に入ることから注意が必要です。

病原体 百日咳菌・パラ百日咳菌

症状 急性呼吸器感染症で、特有な咳（顔を真っ赤にしてコンコンと立て続けに激しく咳き込み、最後にヒューと音を立てて息を吸い込む）が特徴です。通常、7～10日間の潜伏期を経て、普通のかぜ症状で始まり、合併症がない限り熱はなく、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。1～2週のうちに特有の咳がでます。咳は夜間に多く、咳の発作と発作の間は熱もなく健康な状態とあまりかわりませんが、この時期には、眼瞼が腫れた状態になります。特有の咳は、3～4週続き、だんだん咳の回数も減り、回復期に入ります。

乳児（特に生後6月未満）が感染すると、重症化しやすく、時には死に至る危険性がある疾患です。

成人では咳が長く続きますが、乳幼児にみられるような特徴的な発作性の咳がなく、罹患に気付かれず、感染源となって周囲に感染を拡大してしまうこともあり注意が必要です。

治療 百日咳菌に対するものと対症療法によるものがあります。

感染経路 発症患者の鼻咽頭や気道分泌物による飛沫感染と接触感染があります。

予防方法 予防接種を受けることが効果的な予防法です。

市町が実施する定期予防接種の対象者の方は、できるだけ早く予防接種をすませましょう。

また、次のことにも平素から注意し、感染をしないようにしましょう。

外出時、マスクを着用し、人込みはなるべく避けるようにしましょう。

帰宅時のは、「手洗い」と「うがい」を励行しましょう。

咳が続く場合は、安静にして、早めに医療機関を受診しましょう。

百日咳の定期予防接種

接種するワクチン DPT（沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン）

対象者 生後3月から生後90月に至るまでの間にある子

接種方法

	回数	接種方法	標準的接種期間
1期初回	3回	20～56日間隔をあける	生後3月に達した時から生後12月に達するまでの期間
1期追加	1回	初回終了後6月以上間隔をおく	1期初回終了後12月に達した時から18月に達するまでの間

料金 無料

問合せ先 お住まいの市町予防接種担当